

日本旧石器学会
ニュースレター 第36号
NEWS LETTER No. 36
JAPANESE PALAEOLITHIC RESEARCH ASSOCIATION



日本旧石器学会第 15 回大会の開催（報告）

2017 年度日本旧石器学会第 15 回大会が、2017 年 7 月 1 日・2 日、東京都港区の慶應義塾大学三田キャンパス東館 8F ホールにおいて慶應義塾大学民族学考古学研究室との共催で開催された。

総会

7 月 1 日 13 時 30 分から日本旧石器学会総会が行われた。冒頭、佐藤宏之会長から挨拶があり、その後に事務局からの推薦により砂田佳弘会員が議長に選出された。

議事は、各委員会より 2016 年度活動報告と 2017 年度活動計画の報告が行われ、質問・要望事項について審議した後、採決により承認を得た。各委員会の報告・審議事項は本号に掲載しているとおりである。

続いて 2016 年度日本旧石器学会賞の受賞者の発表と授賞式が行われた。学会賞は山原敏朗会員、奨励賞は佐野勝宏会員と長井謙治会員にそれぞれ贈られた。授賞式では佐藤会長から各受賞者に賞状等の贈呈が行われた。

一般研究発表

総会に続いて一般研究発表が行われた。発表者は及川譲・隅田祥光・宮坂清・粟野翔太、橋詰潤・Igor Ya.Shevkomud・内田和典・長沼正樹、野口淳、中村由克・藤野次史、海部陽介・佐藤宏之・後藤明・池谷信之、赤井文人・山原敏朗・中沢祐一、内田和典・S.Nesterov・A.Tabarev・森先一貴・國木田大・松崎浩之、鈴木建治・



写真 1 シンポジウムの様子

高倉純の各氏で合計 8 本の発表である。

シンポジウム

シンポジウム『使用痕分析を統合した行動研究の展開』と題して 7 月 2 日に開催された。まず研究企画委員会の森先一貴委員長より趣旨説明がされた。続いて 5 本の基調報告が行われ、山田しょう氏が総論として研究の現状と問題点を、御堂島正氏が実験的使用痕跡研究の重要性について、そして沢田敦、佐野勝宏、岩瀬彬の各氏によって実践的研究例の報告が行われた。パネル・ディスカッションでは使用痕研究の旧石器時代研究へ貢献についての展望のみならず、使用痕研究を取り巻く研究や教育環境についてなどの幅広い意見交換がなされた。そして最後に阿子島香副会長の総評が行われ、盛会のうちに終了した。

ポスターセッション

ポスターセッションは、7 月 1 日・2 日の両日、東館 3F 展示スペースにおいて行われ、コアタイムが 2 日 12 時 30 分～13 時 30 分の間に設けられた。合計 11 本の発表が行われ、報告者は下岡順直・佐藤宏之・Ravi Korisettar・野口淳・長崎潤一・高屋敷飛鳥・舟木太郎、夏木大吾・國木田大・佐藤宏之・青木要祐・太田圭・増子義彬・熊木俊朗・本吉春雄、国武貞克、光石鳴巳・白石純・森先一貴、鈴木美保、平澤悠・渡辺丈彦、高倉純、野口淳・日本旧石器学会データベース委員会、近藤康久・日本旧石器学会データベース委員会、神田和彦・石川恵美子・宇田川浩一・赤星純平・根岸洋、高田祐一・国武貞克の各氏である。その他に尻労安部洞窟発掘調査団により、青森県東通村尻労安部洞窟の発掘調査成果の展示も行われた。（ニュースレター委員 氏家 記）

2016 年度委員会報告

総務委員会 2016 年度の総務委員会の活動は以下のとおりである。

- (1) 会員情報の管理
- (2) 2016 年度総会に関する資料の作成・会場設営・連絡調整
- ・総会：2016 年 6 月 25 日（土）首都大学東京南大沢キャンパス 講堂
- (3) 第 8 回アジア旧石器協会日本大会の開催について
渉外委員会と連携
- (4) 役員会に関する資料の作成・会場設営・連絡調整
- ・役員会：2016 年 5 月 28 日（土）東京学芸大学小金井キャンパス 講義棟 S206 教室
- (5) 会務に関する連絡・調整，各委員会間の連絡・調整
- (6) 会誌（「旧石器研究」第 12 号），ニュースレター（第 33・34・35 号），各種学会連絡文書の発送
- ・会誌発送：2016 年 7 月末
 - ・ニュースレター：2016 年 8 月第 33 号，2017 年 1 月第 34 号，2017 年 5 月第 35 号
- それ以外に適宜要望に応じて発送を行った。
- (7) 日本考古学協会総会図書交換会等におけるシンポジウム予稿集及び会誌「旧石器研究」の頒布
- ・図書交換会：2016 年 5 月 29 日（日）東京学芸大学小金井キャンパス
- (8) 新入会員の入会・住所変更等に関する事務
- ・2016 年度の新入会員は 2 名，退会者は 1 名であり，2017 年 4 月 1 日現在の会員数は，会費長期滞納により権利を停止している会員を除き 232 名である。
- (9) 日本旧石器学会賞に関すること
- ・2016 年度総会において 2015 年度の学会賞・奨励賞の授賞式を行った。また，2016 年度の学会賞・奨励賞選考に係る事務を行った。
- 工程 8 月 ニュースレター第 33 号で「学会賞推薦」の募集（10 月 15 日～2 月 15 日）
- 2 通の推薦
- 4 月 15 日 選考委員会を開催した。
- 7 月 1 日 総会にて授賞式を行う。
- (10) メーリングリストに関すること
- ・郵送費の削減や会員への連絡の事務作業量の軽減のため，メーリングリストを運用している。現在の登録人数は 86 名である。
 - ・役員間のコミュニケーション並びに学会活動の活性化としての情報伝達，意見交換，及び役員会を補完する役割としての報告，協議の場として役員用メーリングリストを運用している。
- (11) 共催等について

- ・日本第四紀学会主催「考古学，人類学，土壌学とジオパークに関する公開シンポジウム」の後援。2016 年 6 月 19 日（日）
- ・長野県埋蔵文化財センター主催「掘るしん in いいだー三遠南信自動車道 飯喬道路関連遺跡 発掘調査完了記念展示会ー」の後援。2016 年 11 月 8 日～27 日
- ・日本セカンドライフ協会主催 講演会「ラスコー洞窟から広がる世界」講師派遣

会計委員会

1 2016 年度の活動実績について

- (1) 役員会・総会・APA 日本大会・日本考古学協会図書交換会時
- ・会費，刊行物頒布代金徴収（総務委員会との協同）等
 - ・日本旧石器学会賞奨励賞副賞，各委員会立替金，仮払金の支出
- (2) 通年
- ・会員ごとの会費納入状況の管理，会費納入・住居変更等の総務委員会への報告
 - ・刊行物頒布等収入の管理
 - ・会議，普及講演会に出席する役員の交通費補助額の算定，支払
 - ・学会刊行物（会誌 12 号，ニュースレター第 33・34・35 号）の印刷製本費・発送費の支払
 - ・HP 管理，メーリングリスト構築運用委託費の支払
 - ・APA 日本大会経費積立金の口座管理（積立金入金・支払等）
 - ・日本旧石器学会賞関連経費の支出
 - ・その他，学会出納口座の管理

2 2016 年度決算について（表 1 参照）

- (1) 一般会計
- ・収入は，予算額を 341,206 円下回った。主な原因は会費収入減（会員数 235 人に対し，納入実績延べ 188 人・年分）及び会誌売上減である。
 - ・支出は，全費目について予算額以内で執行された。
 - ・予算額と比較して，実支出額は 281,707 円の減，収入額はそれを上回る 341,206 円の減。
 - ・2017 年度への繰越金は 1,558,960 円。2015 年度からの繰越金を 414,299 円切り崩した。
- (2) 特別会計（表 2 参照）
- ・2016 年度 APA 日本大会開催後の清算の結果，180,494 円の余剰金が発生した。
 - ・関係委員との協議の結果，180,000 円を次回 APA 日本大会開催の積立金として特別会計に残し，端数の

表1 日本旧石器学会一般会計 2016 年度決算 (単位:円)

収入				
費目	予算額	決算額	増減	摘要
収入				
会費収入				
会費収入	1,160,000	940,000	-220,000	延べ188人・年分×5,000円【内訳】15年度以前23人, 16年度160人, 17年度5人
その他の収入				
会誌頒布代金	300,000	166,400	-133,600	最新刊(12号)30冊, バックナンバー16冊
シンポジウム予稿集頒布代金	30,000	51,900	21,900	バックナンバー42冊 (APAのため新刊なし)
その他収入	50,000	40,494	-9,506	会誌頁数超過分課金, APA2016年度日本大会開催余剰金繰入れ
前期繰越収支差額	1,973,259	1,973,259	0	
収入計	3,513,259	3,172,053	-341,206	
支出				
費目	予算額	決算額	増減	摘要
支出				
会議費・会場設営費	10,000	6,000	-4,000	日本考古学協会図書交換会卓代
旅費交通費	150,000	108,000	-42,000	学会賞選考, 次年度シンポジウム打ち合わせ, データベース委員会, 普及講演会出席役員旅費補助
通信運搬費	220,000	154,078	-65,922	会誌・ニュースレター送料, 役員間連絡等
消耗品費	30,000	15,465	-14,535	事務用品, 他
印刷製本費	1,110,000	1,010,982	-99,018	会誌(抜刷含む), ニュースレター3件
諸謝金	40,000	0	-40,000	
委託費	64,800	64,800	0	HP管理・メールリスト構築運用
次回APA日本大会経費積立	200,000	200,000	0	
研究グループ運営経費	0	0	0	
シンポジウム開催準備費	0	0	0	
日本旧石器学会賞関連経費	40,000	33,348	-6,652	賞状製作, 副賞
雑費	30,000	20,420	-9,580	郵便振替, 銀行振込手数料等
予備費	1,618,459	1,558,960	-59,499	
支出計	3,513,259	3,172,053	-341,206	

表2 特別会計 (APA日本大会開催経費積立) 2016 年度決算 (単位:円)

収入				
費目	予算額	決算額	増減	摘要
収入				
積立金収入	200,000	200,000		2016年度APA日本大会経費積立金
その他の収入	0	163	163	利子
前期繰越収支差額	800,000	800,000	0	
収入計①	10,00,000	10,00,163	163	
支出				
費目	予算額	決算額	増減	摘要
支出				
APA日本大会経費	1,000,000	819,381	180,619	
その他の支出				
雑費	0	288	288	振込手数料
予備費				
②支出計	1,000,000	819,669	180,331	
③余剰金(①-②)	0	180,494	180,494	
④一般会計へ繰入れ		494	494	
⑤次期繰越金(③-④)	0	180,000	180,000	

494円を一般会計に繰り入れた(「その他の収入」に計上)。

(3) 会計監査

・2017年6月17日に, 会計監査委員より会計監査を受け, 会計が適正に執行されている旨の報告を受けた。

(報告書面掲載は省略)

会誌委員会

1 2016年度活動の概要

2016年度における会誌委員会の目標は, 会誌が充実した内容となるよう責任ある編集体制の確保に努めるものとし, (1) 研究企画委員会と協力しながら学術的水準を維持しつつ, 意欲的で充実した誌面づくりに務める。そのため, 積極的に各地域の会員からの投稿を

募り, 多様な論文・研究ノート・資料報告の集約を行う,

(2) 編集作業の工程を見直し, 日本考古学協会図書交換会に会誌刊行を間に合わせる, (3) 旧石器研究に関する最新情報や関連分野の研究事情について, 投稿数を増やすべく広く会員に周知してその協力を求めるというものであった。(1)については, 研究企画委員会等他の委員会との連携を怠った結果, 十分な投稿数を得ることができなかった。(2)の会誌編集については, 会誌の頒布を日本考古学協会図書交換会に間に合わせることができなかった。(3)についても会員の周知が果たせなかった。

2 会誌『旧石器研究』第13号(2017年刊行予定)の内容ほか

第13号は、原著論文4、会則・規定・会員名簿からなる。総頁数は約100頁で、本誌の構成は以下のとおりである。

『旧石器研究』第13号

論文

御堂島正「黒曜岩製石器に形成された使用痕跡の物理的表面変化 ―土と砂による摩擦実験―」

尾田識好「舟底形石器の特性と行動論的効果 ―北海道の小型舟底形石器1類を伴う石器群の分析を通じて―」

岩瀬 彬・中沢祐一「最終氷期最盛期の北海道における石刃石器群の使用痕分析：川西C遺跡の分析」

沢田 敦「東北日本における後期更新世末の遺跡構造 ―立地・遺構・石材利用をつうじて―」

会則・規定、役員名簿、会員名簿、投稿規定・執筆要項

ニュースレター委員会 2016年度はニュースレター第

33号、第34号、第35号の編集・発行を行った。主な内容は以下のとおりである。

〈第33号〉2016年8月：第8回アジア旧石器協会（APA）日本大会参加記、2015年度委員会報告、2016年度活動計画、会則の一部改訂について、執筆要項の一部改訂について、2015年度日本旧石器学会賞受賞者、2016年度学会賞の推薦、2016年度日本旧石器学会役員会、関連学会情報（第42回九州旧石器文化研究会（佐世保大会）案内、第33回中・四国旧石器文化談話会開催案内）、お知らせ（会費納入・住所変更手続のお願い、メーリングリストの運用について、日本旧石器学会入会申込み手続きについて）

〈第34号〉2017年1月：世界遺産ラスコー展「クロマニオン人が残した洞窟壁画」、2016年度普及講演会報告、2015年度日本旧石器学会受賞者報告、2017年度総会・研究発表・ポスターセッション発表の募集、データベース委員会の活動とご協力のお願い、関連学

表3 第8回APA大会会計報告（単位：円）

収入				
費目	登録料	巡検	JPra	備考
JPra 予算			1,000,000	2012～2016年度積立金
登録料収入	1,010,000			@ 10,000 × 101
ブース出展費用			20,000	シュプリングー・ジャパン
巡検費用		494,000		@ 13,000 × 38
発表要旨集売上			10,500	@ 1,500 × 7
コーヒー代	10,500			
雑収入			163	2012～2016年度積立金に係る利子
小計①	1,020,500	494,000	10,30,663	
支出				
費目				内訳等
会場費				
宿泊サイト代			5,4000	外国人参加者宿泊用
宿泊サイト管理料			21,600	外国人参加者登録用
印刷製本費			290,520	予稿集印刷
印刷製本費			10,800	横断幕印刷費
通信費			13,700	査証取得にかかわる書類等
通信運搬費		113,400		巡検バス代大型 1台
謝金（準備等アルバイト）			112,000	@ 8,000 × 14
代表者巡検参加費			78,000	@ 13,000 × 6
代表者滞在費4泊分			165,750	@ 6,500 × 4 × 6 + キャンセル料
代表者シンポ参加費			90,000	@ 10,000 × 9
代表者食費			71,640	6/25 夕食代
代表者移動交通費			50,330	空港～ホテル, ホテル～首都大
巡検昼食		40,600		@ 864 × 47
巡検夕食		260,000		@ 6,500 × 40
巡検高速料金他		3,920		高速料金+駐車場代（宮ヶ瀬湖）
巡検おやつ代				昼食に含まれる（お茶）
巡検お土産代		8,100		@ 1,620 × 5
巡検下見交通費		2,205		高速料金+ガソリン代
welcome party	305,402			@ 3,000 × 100 + 日本酒
farewell party	400,000			@ 4,000 × 100
シンポ昼食（2食）	98,409			@ 463 × 194 + @ 700
お茶代	39,480			
コーヒー代	32,400			
コングレスキッズ	92,420			@ 1,000 × 110（予算）
諸雑費	3,680	5,452	861	その他消耗品/ヘルメットインナー/振込手数料など
小計②	971,791	433,677	959,201	
①-②	48,709	60,323	71,462	180,494

会情報（岩宿フォーラム 2016 / シンポジウム開催報告，第 33 回 中・四国旧石器文化談話会開催報告，第 42 回 九州旧石器文化研究会開催報告），お知らせ（学会賞の推薦について（再募集），日本旧石器学会研究グループの募集，メーリングリストの運用について，会費納入・住所変更手続きのお願い，日本旧石器学会入会申込み手続きについて）

〈第 35 号〉2017 年 5 月：旧石器時代研究とジオパーク活動，岩石学にもとづく石材研究のすすめ，2017 年度日本旧石器学会総会・研究発表・シンポジウムのご案内，APA 新執行体制と小野昭会員の名誉会長選出について，「日本の旧石器時代遺跡」データベース更新へのご協力をお願い，関連学会情報（東北日本の旧石器文化を語る会第 30 回記念大会開催報告，パレオアジア文化史学 A01 班研究集会「日本列島における新人文化の形成過程」開催報告），お知らせ（メーリングリストの運用について，会費納入・住所変更手続きのお願い，日本旧石器学会入会申込み手続きについて）

渉外委員会

- ・2016 年度 6 月開催の第 8 回 APA 日本大会

2016 年 APA 日本大会が終了した（概要は研究企画委員会の 2016 年度報告を参照）。登録者（同伴者含む）は 11 か国 104 名（海外参加者 41 名，国内参加者 63 名），発表件数は，IUP シンポジウム口頭発表 8 件，一般セッション口頭発表 30 件，ポスター発表 19 件であった。実行委員会は APA 日本大会終了時点で解散となった。決算報告は会計委員会報告（表 3）のとおり。大会の詳細については，プログラム集，ニュースレター第 33 号を参照されたい。

IUP シンポジウム特集号（Archaeological Research in Asia 掲載予定），および一般研究発表特集号（Quaternary International を検討中）の刊行に向けた作業を開始した。

- ・APA 新執行体制について

APA の今期執行体制が以下のとおり決定した。任期は 2017 年 1 月 1 日～2018 年 12 月末。韓国の執行委員 1 名が未定であり，近日中に決定の見込み。

会長：Andrei KRIVOSHAPKIN 博士（ロシア）

事務局長：Evgenii RYBIN 博士（ロシア）

ロシア：Konstantin PAVLENOK 博士

中国：Youping WANG 教授（副会長），Xing GAO 教授，Shejiang WANG 教授

韓国：Gikil LEE 教授（副会長），Hyeongwoo LEE 教授，未定

日本：佐藤宏之会員（副会長），出穂雅実会員，佐野勝宏会員

下線を引いた委員は連絡担当執行委員。APA 執行会議議事についてはニュースレター第 35 号を参照されたい。

研究企画委員会 2016 年度の活動は以下のとおりである。

- (1) 2016 年度 APA 日本大会の開催（APA 実行委員会）

- ・日程：2016 年 6 月 24～28 日

- ・会場：首都大学東京

- ・プログラム

 - シンポジウム 8 件

 - 一般研究発表 30 件（4 セッション）

 - ポスター発表 19 件

 - エクスカージョン 神奈川県で実施

 - ※地元実行委員会による協力を得た

- (2) シンポジウム特集号の編集

- ・Archaeological Research in Asia 掲載予定

- ・編集：出穂雅実，佐野勝宏，Nicolas Zwyns

- (3) 一般研究発表特集号

- ・Quaternary International を検討

- ・執筆者募集中

データベース委員会

データベース委員会活動方針の基本（2016 年度より継続）

「日本列島の旧石器時代遺跡」データベースを

- ・最新の情報に基づき

- ・より使いやすく

- ・維持管理の容易なデータベースに！

2016 年度活動報告（2015 年度からの経緯を含む）

- 1 学会 HP 上に旧石器データベースを公開（2015 年度）

ウェブ公開（<http://paleolithic.jp/deta/index.htm>）→管理は広報委員会

- 2 ウェブ版利用状況調査

- ①利用実績（アクセス数）→学会ウェブサイトアクセス数の過半を占める

- ②旧石器遺跡ハテナソソ→学術的な利用が見込まれる関連分野の研究者等と意見交換

- 3 更新・改訂作業

- ①改訂版データベースの基本構成の検討

- ②奈良文化財研究所「全国遺跡報告総覧」とのデータベース連携

- ・2016 年 8 月 31 日：第 1 回打ち合わせ（於・総合地

球環境学研究所)

・2016年11月27日:「旧石器遺跡ハテナソン」(於・奈良文化財研究所)

・2017年5月11日:第2回打ち合わせ(於・奈良文化財研究所)

③会員への協力のお願い

・ニュースレター第34号・第35号

・委員会内で地域担当を決めて更新・改訂作業体制を構築

④「旧石器遺跡マッピングパーティー」

・2016年12月10日:秋田マッピングパーティー(国際教養大)→秋田石器文化研究会,国際教養大学アジア地域研究連携機構と共催

・2017年4月22日:島根マッピングパーティー(島根大学附属図書館)→島根大学法文学部山陰研究センター,島根大学附属図書館,島根大学地域未来戦略センター,中四国旧石器文化談話会,総合地球環境学研究所と共催

⑤ウェブ版改訂作業マニュアルの作成(神田・秋田県石器文化研究会)→更新予定

入会資格審査委員会 2016年度は中村法道氏,和田好史氏の2名の方の審査が行われ,全ての方が会員として承認された。

広報委員会 日本旧石器学会や旧石器時代の周知・PR,普及講演会の実施,HPの更新,関連学会情報の提供や魅力あるコンテンツの作成を柱に,以下のとおり活動を行った。

1 普及講演会を開催し,日本旧石器学会や旧石器時代の周知・PRに努めた。

・普及講演会

日時:2016年11月23日(水・祝日)13:00~14:30

場所:国立科学博物館2階講堂

内容:「クロマニヨン人の時代の日本列島」「世界遺産ラスコー展~クロマニヨン人が残した洞窟壁画~」の記念講演会とタイアップ)

・講演:海部陽介「アフリカから日本へやってきた現生人類(ホモ・サピエンス)」

佐藤宏之「日本の独特な後期旧石器文化」

2 HPでは,旧石器学会,講演・共催事業・関連学会情報等の情報提供をはじめ,各種コンテンツを追加した。

①ホームページ更新

5月14日 Third Circular The 8th of the Asian Paleolithic Association June 24th - 28th, 2016の掲載

5月24日 インド旧石器公開講演会(6月28日)開催案内の掲載

5月25日 日本旧石器学会2016年度総会(6月25日)開催案内の掲載

6月8日 ニュースレター第32号のHP掲載

6月16日 沖縄県石垣島白保竿根田原遺跡の現地説明会(6月30日・7月1・2日)案内の掲載(他12件)

②その他HP関連,データベース委員会との連携

12月20日 データベース委員会から要請を受け,HP上のデータページ閲覧数とデータ・ダウンロード数を照会。

※今後,遺跡データベース改訂に向けた対応として,閲覧・ダウンロード数の確認,HP問い合わせフォーム設置等について,総務委員会とも連携して協力する(データベース委員会からの提案)。

3 その他 共催・後援・協力事業

・日本第四紀学会主催の考古学,人類学,土壌学とジオパークに関する公開シンポジウムへの後援。

主催:日本第四紀学会(共催:明治大学黒輝石研究センター)

期日:2016年6月19日

場所:明治大学駿河台校舎リパティータワー1階1011教室(東京都千代田区神田駿河台1-1)

・特別展「世界遺産ラスコー展~クロマニヨン人が残した洞窟壁画~」への協力。

主催:国立科学博物館・毎日新聞社・TBS

期日:2016年11月1日(火)~2017年2月19日(日)

場所:国立科学博物館(東京都台東区上野公園7-20)

2017年度活動計画

総務委員会 例年どおりの経常的な会務に取り組む。

その他,以下の項目に取り組む。

(1) 日本旧石器学会賞に関すること

工程 8月 ニュースレター第36号で「学会賞推薦」の告知 4月頃 学会賞選考委員会を開催し,推薦をもとに受賞候補を決定 5月 日本考古学協会総会時の役員会で,決定 6月 日本旧石器学会総会にて授賞式。

学会賞の推薦件数が少ないので,会員諸氏には積極的な推薦をお願いする。

(2) 研究グループ

表 4 日本旧石器学会一般会計 2017 年度予算 (単位: 円)

収 入				
費 目	2017 年度予算額	2016 年度決算額	2016 年度予算額	摘 要
会費収入				
会費収入	1,175,000	940,000	1,160,000	会員 235 名× 5,000 円
その他の収入				
会誌頒布代金	230,000	166,400	300,000	
シンポジウム予稿集頒布代金	190,000	51,900	30,000	
その他収入	10,000	40,494	50,000	会誌頁数超過分課金 (2016 年度未収金)
前期繰越収支差額	1,558,960	1,973,259	1,973,259	
収入 計	3,163,960	3,172,053	3,513,259	
支 出				
費 目	2017 年度予算額	2016 年度決算額	2016 年度予算額	摘 要
会議費・会場設営費	50,000	6,000	10,000	日本考古学協会図書交換会卓代, 総会・シンポジウム会場使用料等
旅費交通費	190,000	108,000	150,000	役員旅費補助
通信運搬費	140,000	154,078	220,000	会誌・ニュースレター送料, 役員間連絡等
消耗品費	20,000	15,465	30,000	事務用品等
印刷製本費	1,020,000	1,010,982	1,110,000	会誌, シンポジウム予稿集, ニュースレター 3 件
諸謝金	0	0	40,000	
委託費	64,800	64,800	64,800	HP 管理・メーリングリスト構築運用
次回 APA 日本大会経費積立	150,000	200,000	200,000	
研究グループ運営経費	0	0	0	
シンポジウム開催準備費	10,000	0	0	次年度打ち合わせ会議交通費補助
日本旧石器学会賞関連経費	40,000	33,348	40,000	賞状製作, 副賞
雑費	30,000	20,420	30,000	郵便振替, 銀行振込手数料等
予備費 (次年度繰越金)	1,449,160	1,558,960	1,618,459	
支出 計	3,163,960	3,172,053	3,513,259	

表 5 特別会計 (APA 日本大会開催経費積立) 2017 年度予算 (単位: 円)

収 入				
費 目	2017 年度予算額	2016 年度決算額	2016 年度予算額	摘 要
積立金収入	150,000	200,000	200,000	
その他の収入	0	163	163	
前期繰越収支差額	180,000	800,000	800,000	
収入 計	330,000	1,000,163	1,000,000	
支 出				
費 目	2017 年度予算額	2016 年度決算額	2016 年度予算額	摘 要
APA 日本大会経費	0	819,381	180,619	
その他の支出	0	288	0	
予備費	0	0	0	
支出 計	0	819,669	1,000,000	
一般会計へ繰入れ		494	0	
次期繰越金	330,000	180,000	0	

2017 年度においては、研究グループの応募はない。
2018 年度の研究グループについてニュースレター第 37 号で募集する。

(3) 第 8 期役員選挙を行う。

選挙管理委員については、麻生順司会員、飯田茂雄会員、山田和史会員に委嘱する。

工程 12 月 ニュースレター第 37 号で選挙告示 1 月 立候補受付 2 月中～下旬 選挙公報及び投票用紙送付 4 月上旬頃 選挙管理委員会による開票 5 月 ニュースレター第 38 号にて選挙結果報告 6 月 総会にて選挙管理委員長報告

(4) その他

役員会等を実施した際には、議事録、打合せ簿等を作成する。

会計委員会

(1) 会費滞納者が多いこと、刊行物売上減による収入減並びに会の事業量増、物価・消費税率上昇による支出増により、会の収支環境が悪化していることから、次の対応策を講じる。

① 会費滞納者に対する督促強化 (12 月発行予定のニュースレター第 37 号に督促文章等を同送し納付を促す)。

② 次会 APA 大会経費積立金について、15 万円に減額する (2016 年度までは 20 万円)。

(2) その他については、基本的には 2016 年度と同様の事務を行う。ただし、例年同様の研究発表・シンポジウムが開催され、役員選挙が行われる点が 2016 年度と異なるため、注意しながら円滑な事務執行に努める (表 4・5 参照)。

会誌委員会 昨年度と同様、引き続き以下の目標を定

める。会誌第 14 号が充実した内容となるよう責任ある編集体制の確保に努める。

(1) 研究企画委員会と協力しながら学術的水準を維持しつつ、意欲的で充実した誌面作りに努める。そのため、積極的に各地の会員からの投稿を募り、多様な論文・研究ノート・資料報告の集約を行う。

(2) 編集作業の工程を見直し、2018 年の日本考古学協会図書交換会に会誌刊行を間に合わせる。

(3) 旧石器研究に関する最新情報や関連分野の研究事情について、投稿数を増やすべく広く会員に周知して協力を求める。

ニュースレター委員会 2017 年度はニュースレター第 36 号、第 37 号、第 38 号の編集・発行を行う。主な内容は下記のとおり。

〈第 36 号〉日本旧石器学会第 15 回大会の開催（報告）、2016 年度委員会報告、2017 年度活動計画、2016 年度日本旧石器学会賞受賞者、2017 年度学会賞の推薦、お知らせ

〈第 37 号〉2016 年度日本旧石器学会賞受賞者報告、役員選挙について、2017 年度普及講演会、委員会活動報告、関連学会情報、お知らせ

〈第 38 号〉2018 年度日本旧石器学会総会のお知らせ、日本旧石器学会役員選挙結果のお知らせ、委員会活動報告、関連学会情報、お知らせ

渉外委員会

・APA 執行委員会との連絡・調整。次回 2018 年第 9 回 APA ロシア大会開催情報の収集と会員への周知。

・APA 加盟資格（国・個人）に関する検討。

・会議後論文集の作成

・次回日本大会開催（7 年後）への引き継ぎ事項のとりまとめ。

研究企画委員会

(1) 第 15 回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの企画・運営

・日程：2017 年 7 月 1・2 日

・会場：慶應義塾大学三田キャンパス

・主催：日本旧石器学会

共催：慶應義塾大学民族学考古学研究室

・シンポジウム：使用痕分析を統合した行動研究の展開

(2) 第 16 回日本旧石器学会大会に向けた準備

・会場の選定（改選期のため首都圏を予定）

・シンポジウムの企画

データベース委員会

(1) 改訂・更新作業の継続

・基本はウェブ上での協働作業を進める→できる人が、できる時に！

・更新作業ハンズオン・ワークショップの開催を通じて協力者を確保し、作業方法を周知→7/1 の総会前（午前中）に総会会場で実施予定

・研究上価値のある付加情報の整備と、より効果的な DB 連携について検討する→引き続き奈良文化財研究所と協働の予定

(2) 改訂・更新版の公開

・2018 年 6～7 月を目途に作業が完了した部分から改訂・更新版を公開する（基幹情報を優先）→旧版となる 2010 年版もレガシーとして残す。作業量が多い都道府県は順次移行

(3) 課題

・改訂・更新作業の手順を周知し、齟齬が生じないようにするためにも各地でのワークショップ開催を行いたい←予算の制約

※2016 年度は関係諸機関のご協力と委員の自助努力により実施（旧石器遺跡ハテナソンの旅費支出 1 名分のみ）

※2017 年（およびそれ以降）は外部資金（研究助成金等）の獲得も目指す

入会資格審査委員会 2016 年度に引き続き、入会申込者の資格審査を迅速に行う。なお、会員各位においては、積極的に新会員勧誘を行っていただきたい。

広報委員会 日本旧石器学会や旧石器時代の周知、PR のために、普及講演会の開催、教科書問題、HP の更新や魅力あるコンテンツの作成を柱に、以下のとおり活動を行う。

(1) 普及講座を開催し、日本旧石器学会や旧石器時代の周知、PR に努める。

・東日本：未定。場所、共催相手を模索中。

・西日本：九州での開催を調整中。

(2) HP では、単に情報提供だけでなく、旧石器時代の理解を促進するための「日本列島の旧石器時代遺跡」などのコンテンツを追加する。地域と时期的な偏りを減らす努力。※九州の遺跡の充実

(3) 教科書問題の対応として、HP に旧石器時代解説コンテンツ「旧石器時代の教科書」を充実させる。

(4) HP の新たなコンテンツ追加を検討する。

(5) HP へのアクセスを増やす方策を検討する。

※データベース委員会との連携

・2016 年度にデータベース委員会から提案を受けたことから、今後、遺跡データベース改訂に向けて引き続き

き総務委員会とも連携して協力する。

・閲覧、ダウンロード数の確認、HP上の問い合わせフォーム設置等についても検討する。

(6) その他、旧石器時代関連の周知に関する共催、後援、協力事業を実施する。

2017年度日本旧石器学会役員会

(2017年4月1日～2018年3月31日)

会長：佐藤宏之

副会長：阿子島香

総務委員会：*鈴木美保 △森先一貴 岩瀬 彬

会計委員会：*沖 憲明 三好元樹

会誌委員会：*松本 茂 海部陽介 神田和彦
沢田 敦 長崎潤一

ニュースレター委員会：*氏家敏之 橋詰 潤
馬籠亮道

渉外委員会：*出穂雅実 加藤真二 佐野勝宏

研究企画委員会：*森先一貴 海部陽介 鈴木美保
中沢祐一 三好元樹 尾田誠好

データベース委員会：*野口 淳 神田和彦
馬籠亮道 光石鳴巳
鹿又喜隆 国武貞克
近藤康久

入会資格審査委員会：*加藤真二 阿子島香

広報委員会：*及川 穰 沢田 敦

日本旧石器学会賞選考委員会：*伊藤 健 佐藤宏之
阿子島香 鈴木美保
森先一貴

選挙管理委員会：*麻生順司 飯田茂雄 山田和史

会計監査：藤野次史 小嶋善邦

顧問：なし

アジア旧石器協会：副会長 佐藤宏之
執行委員 出穂雅実 佐野勝宏

*は委員長 △は副委員長 _は委嘱委員

会誌執筆要項の一部改訂について

7月1日に開催された役員会において会誌執筆要項の一部改訂(下線部分)が承認されました。このこと

につきましては会誌第14号から実施されます。

① 8. 掲載誌・別刷

原稿を収載の場合、掲載誌3部、掲載された原稿の電子ファイル(PDFファイル)を著者(論文責任者)に進呈する。別刷を希望する場合は、執筆者の負担により増刷することができる。なお、進呈された電子ファイルの公開などは原則として1年間は控えること。また、公開する場合は必ず学会の承諾を得ること。

② (2004年5月21日制定・2017年7月1日改訂)

会費の値上げ(会則の一部改訂)について

日本旧石器学会では2003年の設立以来14年間、年会費5,000円で運営を行ってまいりましたが、ここ数年収支のバランスが悪く、実質的には予備費を切り崩して運営を行っている状態でした。そのため総会において年会費の値上げの提案を行い、承認をされましたので**来年の2018年度より年会費が6,000円になります。**会員各位のご理解をよろしくお願いします。それに伴い、会則が一部改訂になります(下線を引いた部分)。

付則1 会費は前納制で年額6,000円とする。

2016年度日本旧石器学会賞受賞者

2016年度の日本旧石器学会賞選考委員会を2017年4月15日(土)に開催し、学会賞候補者1名、奨励賞候補者2名を選考しました。それを受け、5月26日の役員会においてそれを了承、決定し7月1日の総会において授賞式を行いました。2016年度の受賞者は以下のとおりです。

2016年度学会賞受賞者：山原敏朗氏(帯広百年記念館)
2016年度奨励賞受賞者：佐野勝宏氏(早稲田大学高等研究所)・長井謙治氏(東北芸術工科大学)

なお、「選考理由」及び「受賞者の言葉」は、ニュースレター第37号にて報告します。

2017年度学会賞の推薦

「日本旧石器学会賞規定」に則り、2017年度の学会賞受賞候補の推薦を募ります。旧石器研究の発展に貢献し、優れた業績をあげた会員を推薦してください。

1. 推薦内容：学会賞受賞候補
2. 推薦期間：2017年10月15日（日）～2018年2月15日（木）（必着）
3. 推薦者の資格：日本旧石器学会会員
4. 推薦方法
 - ・学会賞受賞候補の氏名、推薦理由、推薦者の氏名・連絡先をご記入の上、郵送もしくは電子メールにより下記の事務局宛に送付してください。
5. 注意事項
 - ・推薦は自薦、他薦を問いませんが、お一人につき一名を限度とします。
 - ・学会賞受賞候補は、日本旧石器学会会員に限ります。推薦にあたって、学会賞候補ご本人の承諾を得る必要はありません。
 - ・推薦の書式は自由です。
 - ・推薦理由は概ね100字から300字にまとめてください。
6. 応募先・紹介先
日本旧石器学会事務局（担当：鈴木美保・岩瀬 彬）
〒192-0364 東京都八王子市南大沢1-1
首都大学東京 都市教養学部人文・社会系歴史・考古学分野
電子メール jim@palaeolithic.jp

『旧石器研究』の原稿募集

会誌『旧石器研究』第14号の原稿を募集しています。投稿を希望される会員は、会誌第13号の末尾に掲載している投稿規定及び執筆要項に従ってご投稿ください。編集の都合上、投稿希望者は執筆者氏名及び仮のタイトルを予めご連絡ください。会員の皆様からのご投稿をお待ちしています。

連絡先・投稿先

〒880-0864 宮崎県宮崎市吾妻町
27-2緒方貸家 松本 茂 宛
電子メール jp.ra.ecmember@gmail.com

お知らせ

会費納入・住所変更手続きのお願い

日本旧石器学会は、皆様の会費によって運営されて

いるため、会費は原則前納とさせていただきます。会費未納の方々につきましては、速やかに所定の会費の納入手続きをなされますようお願いいたします。年会費は5,000円で、振込先は、日本旧石器学会 郵便振替番号00180-8-408055です。全国の郵便局にて簡単に手続きいただけます。

なお転居をされた方は、必ず住所変更の手続きをお願いいたします。郵便局に転居届を出されていても、本会では郵便局以外の配送会社を利用していますので転送していただけません。会費納入の際に払込取扱票に新住所を記載いただくか、または事務局までメール等でご連絡ください。

メーリングリストの運用について

メーリングリストの運用を行っています。これは学会からの連絡手段として利用するとともに、情報交換の場として活用していくために設けたものです。ただ、運用から3年以上がたちましたがまだ会員の約3割の方にしか登録いただけていません。まだ登録していない会員諸氏におかれましてはメーリングリストにご登録ください。メールアドレスを、事務局のメールアドレス(jimu@palaeolithic.jp)までお知らせください。速やかにご利用できるようにします。強制するものではありませんが、ご協力をお願い申し上げます。

日本旧石器学会入会申し込み手続きについて

日本旧石器学会入会申込みにつきましては、入会申込書を日本旧石器学会ホームページからダウンロード(<http://palaeolithic.jp/join.htm>)し、必要事項を記載の上、日本旧石器学会事務局へ郵送してください。入会資格審査にあたっては論文等著作物の提出を求める場合があります。ご協力ください。

日本旧石器学会ニュースレター 第36号
2017年8月21日発行

編集：日本旧石器学会ニュースレター委員会
氏家敏之・橋詰 潤・馬籠亮道

発行：日本旧石器学会

事務局：〒192-0364 東京都八王子市南大沢
1-1 首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系 歴史・考古学分野

E-mail jim@palaeolithic.jp

HP <http://palaeolithic.jp/index.htm>